

令和2年版環境白書

第3章 地球環境保全の積極的推進

第3節 酸性雨対策の推進

1. 酸性雨調査

(1) 事業目的

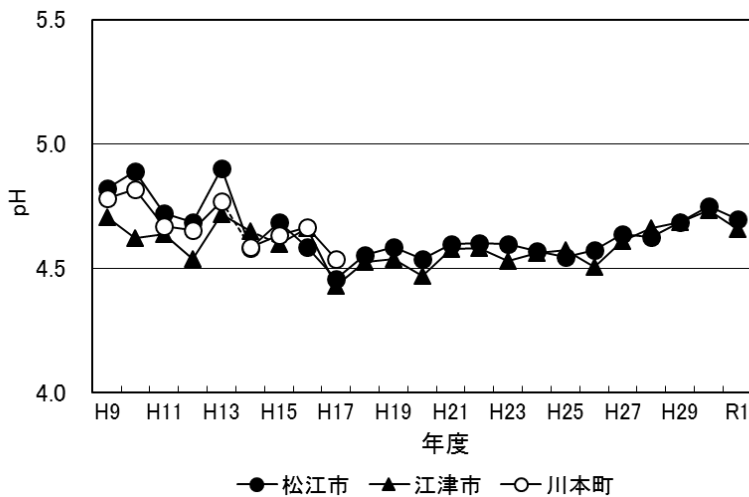
本県における酸性雨(※1)の実態把握とその酸性化機構の解明を目的に、県内2地点(松江市、江津市、平成17年度まで川本町)において降水の調査を行っています。

(2) 取組状況

採取は降水時開放型捕集装置(Wet-Only採取装置)を用い、松江は原則1週間単位、江津は2週間単位で実施しています。測定項目は、pH、電気伝導度(EC)、硫酸イオン(SO_4^{2-})、硝酸イオン(NO_3^-)、塩化物イオン(Cl^-)、アンモニウムイオン(NH_4^+)、カルシウムイオン(Ca^{2+})、マグネシウムイオン(Mg^{2+})、カリウムイオン(K^+)、ナトリウムイオン(Na^+)です。

令和元年度における年平均pHは松江：4.70、江津：4.66であり、平成18年度以降は横ばいで推移していましたが、近年は上昇している傾向が見られます。

図1 松江、江津、川本における降水のpH年平均値の経年変化



※1. 酸性雨

工場等からの排煙や自動車排出ガス等に含まれる硫黄酸化物や窒素酸化物などの大気汚染物質が長距離に移流し拡散するうちに大気中で太陽光線、炭化水素などの影響を受け酸化し、強い酸度の雨水や霧として降下したもの。人為的影響がない場合、二酸化炭素などの影響で、pH5.6くらいだと言われており、それ以下が酸性雨のひとつの目安です。そのように雨水などに取り込まれ地表に降下するものを湿性沈着ともいいます。一方、大気汚染物質が大気中から直接地表に降下する場合もあり、乾性沈着といいます。広義では湿性沈着と乾性沈着を合わせて酸性雨と呼んでいます。

【担当課】

| | |
|-------|--------------|
| 所属名 | 問い合わせ先 |
| 環境政策課 | 0852-22-6379 |